児童に見られるつまずき

　図から比例関係をとらえ、式を立てることができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　児童が実感しやすい数値に置き換えて考えさせたり、２数直線図と式、答えを関連させながら説明させたりすることで、図と式を関連付けながら比例関係を捉えられるようにする。

指導事例集ｐ．８５

１　学年・単元名　　第５学年　小数×小数（数量関係領域）

２　単元目標

　小数をかけることの意味がわかり、計算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。

３　単元の内容

**・（整数）×（小数）の立式と計算の仕方**

・（小数）×（小数）の立式と計算の仕方

・（小数）×（小数）の筆算の仕方

・（小数）×（小数）で、０の処理を含む場合や小数点の位置のたしかめ

・乗法と積の大小関係

・辺の長さが小数値の場合の面積の求積

・辺の長さが小数値の場合の体積の求積

４　本時の目標

　　小数をかける計算の式や答えを２数直線図に結び付けて説明することができる。

５　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 指導上の留意点  **太字：つまずきに対する手立て** |
| 展開  導入 | １　整数倍の問題を解き、文章問題の構成が、かけ算であることを理解する。  １ｍの重さが1.2㎏の鉄の棒があります。この鉄の棒２mの重さは何㎏ですか？  ２　鉄の棒の長さを、0.8mの小数に置き換えた問題を考える。  １ｍの重さが1.2㎏の鉄の棒があります。この鉄の棒0.8mの重さは何㎏ですか？  （予想される子どもの考え）  1mの時よりも、答えが小さくなるための操作で、以下のような式が考えられる。  ・ひき算：1.2 ― 0.8 =  ・わり算：1.2 ÷ 0.8 =  ・かけ算：1.2 × 0.8 =  ３　２数直線を手がかりに、0.8倍になること（小数×小数の関係）を理解し、説明しあう。  ４　既習の計算を利用して1.2 × 0.8を計算する。  ま  と  め  12 × 8 ＝ 96をもとに考えると  1.2 × 0.8  ＝ (12 ÷ 10) × (8 ÷ 10)  ＝ 96 ÷ 100  ＝ 0.96  ５　ふりかえり | ・1.2kgの2m分ということから、問題の構成がかけ算であることを確認する。  ・1.2×２は、既習事項であるが、答えに小数点が正しくつけられているか確認する。  ワークシート①使用  参考：記入例①  ・導入と同じ構成の問題を、0.8m分に置き換えて、まず自力解決でノートに式と〇〇算と考えた理由を書かせる。  **・「なぜ〇〇算にしたかと言うと、」という書き出しを板書することで、書くのが苦手な子も書き出しやすいようにする。**  参考：授業の様子（写真）  板書  ・導入と同じ問題構成になっているにも関わらず、数量関係が理解できず、ひき算やわり算で考える児童や、かけ算で立式していても、数量関係がわかっていない児童を、ノートの記述から確認しておく。  **・１よりも小さくなる数量の関係（小数倍）を、２数直線図を手がかりにイメージさせ、0.8倍のかけ算であることを確認する。**  （倍）  ワークシート③使用  （評価）  小数×小数の関係を、ペアに説明することができる。  ・既習の計算をもとに、  12 × 8 ＝ 96になることを確認する。  ・1.2 × 0.8は、それぞれの整数を１０で割ったものなので、  整数の商÷100として求められることを確認する。  （評価）  ・かけ算をしても、積がかけられる数よりも小さくなる場合（小数倍）があることが理解できたか。 |